

# ニッポン

ドクター和の



# 臨終図巻

〈がん宣告をうけ約5カ月が過ぎました。治療法、食事、生活習慣、価値観、思考、改善しなければならぬことが沢山あります(中略)一進一退を繰り返しながらではありますがおかげさまで沢山の仲間の手を借りながら家族共々、次の日に向かっていっている状況です。年末に少しでも良い報告ができるよう流れを感じながら、緊張らず過ごします。生きます〉

若者に人気のヒップホップグループ「ET-KING」のリーダー、いときんさんが、肺腺がん闘病中の昨年11月21日、ブログに綴った言葉です。

いときんさんは、このブログから約70日後

## 41 いときん



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。大阪大学第二内科。1995年、長尾クリニックを開業。外来診療で在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。著「痛くない死に方」は、関西国際大学客員教授。

の今年1月31日に旅立ちました。死因はがん性心膜炎。38歳という若すぎる死です。

昨年6月に受けた健康診断で肺腺がんが発覚したときは、ステージ4で、脳とリンパ節への転移を認めました。

男性のがん死亡のトップである肺がんですが、男性だけでも毎年5万人以上が命を落としています。肺がんは、小細胞がん

と非小細胞がんと大きく2種類に分けられます。さらに非小細胞がんは肺腺がん、扁平上皮がん、大細胞がんに分けられますが、このうち肺腺がんが60%を占めます。

肺腺がんは、初期段階では自覚症状はほとんど現れず、見つかりにくいがんの一つです。早期で見つかるケースは、たいてい人間ドックやがん検診などで発見されます。

進行するに従い、せきが長時間続きたり、血痰が出る、胸痛などの症状が出てきます。いときんさんがそうだったように、リンパ節などに転移しやすいがんでもあります。ステージ4で見つかった場合、

外科手術の適応はななく、抗がん剤治療にも大きな期待ができません。ことがよくあります。ET-KINGは、

2014年にメンバーのTENNさんが亡くなっていきます。その悲

しみを乗り越えるようにして、3年間活動を続けてきた6人でした。そんな中でリーダーのがん発覚はファンにとってショックも相当なものだったでしょう。

「生きるで」…。いときんさんは、病室にギターを持ち込んで曲作りに励みました。昨年12月28日、ET-KINGツアー最終日の大阪・難波で、見事ライブ復帰を遂げたのです。

舞台上でトレードマークのハッピを脱ぎ捨てて、上半身裸になると「ありがとう!」「生きるで!」と何度も繰り返しました。

「お父ちゃん、お母ちゃんにもらった体、大事にしろよ。公衆便所やないで。酒やたばこ、体の中に毒、放り込んだらあかんで。病気になるから、治すんはたいへんやからな」と会場に語りかける場面も。

先のブログの通り、新たな人生観をつかんだのでしょうか。憂いなき最期の笑顔でした。

# 「生きるで」最期に届けた笑顔